

2025年10月1日
「執筆の手引」の改定について

編集委員会

1. 一桁数字の表記

これまで、一桁数字の表記は全角のみとしていたが、全角または半角のいずれであっても支障ないことが確認されたため、以下のとおり変更することとする。

旧	新
<p>3. 投稿論文の構成について</p> <p>3.11. 記述</p> <p>筆者の主張を読者に正確に伝えるために、以下の点に注意する。</p> <ul style="list-style-type: none">本誌読者の多様な専門的背景を念頭に置き、記述は簡潔かつ明瞭にする。当用漢字、現代かなづかいを用いる。各段落冒頭は全角一文字下げる。<u>数字は算用数字を使用し、1桁数字は全角、2桁以上の数字は半角とする。</u>括弧は半角、句読点(、および。)は全角とする。ただし、参考文献については、句読点(、および。)は半角とする。なお、外国語を表記する場合にあって、その語の一般的な表記法において単語間や句読点の後に半角スペースが必要な場合は、その慣行に従う。上付き、下付きで表記すべき文字や数字(例. χ^2検定)は、例のように正確に記述する。本文および図表での統計記号(例. p, t, F, SD等)は、イタリック体にする。固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。	<p>3. 投稿論文の構成について</p> <p>3.11. 記述</p> <p>筆者の主張を読者に正確に伝えるために、以下の点に注意する。</p> <ul style="list-style-type: none">本誌読者の多様な専門的背景を念頭に置き、記述は簡潔かつ明瞭にする。当用漢字、現代かなづかいを用いる。各段落冒頭は全角一文字下げる。<u>数字は算用数字を使用し、1桁数字は全角</u> <u>または半角、2桁以上の数字は半角とする。</u>括弧は半角、句読点(、および。)は全角とする。ただし、参考文献については、句読点(、および。)は半角とする。なお、外国語を表記する場合にあって、その語の一般的な表記法において単語間や句読点の後に半角スペースが必要な場合は、その慣行に従う。上付き、下付きで表記すべき文字や数字(例. χ^2検定)は、例のように正確に記述する。本文および図表での統計記号(例. p, t, F, SD等)は、イタリック体にする。 <p>固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。</p>

2. 副題の表記

副題の表記について、「執筆の手引」では「できる限り副題がない方が望ましい」としていたため、明確なルールは設けていなかった。しかし、実際には副題が付された論文の投稿もあることから、以下のとおり定めることとする。

旧	新
<p>3. 投稿論文の構成について</p> <p>3.1. 論文の冒頭</p> <ul style="list-style-type: none">• 投稿論文種別をページ左上に明示する。• 論文の冒頭には、題名、著者名、所属機関を日本語で示す。また、1ページ目左下に、著者名、題名、所属機関およびその所在地を英語で示す。なお、日英の題名、著者名、所属機関は一致させること。• 題名は、論文等の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等は含めない。できる限り副題がない方が望ましい。字数については、40字以内に収まるようにする。• 著者名には、*1, *2 のように「*」と「数字」を上付きで表記する。それらに対応した所属機関を著者名の下段に示す。	<p>3. 投稿論文の構成について</p> <p>3.1. 論文の冒頭</p> <ul style="list-style-type: none">• 投稿論文種別をページ左上に明示する。• 論文の冒頭には、題名、著者名、所属機関を日本語で示す。また、1ページ目左下に、著者名、題名、所属機関およびその所在地を英語で示す。なお、日英の題名、著者名、所属機関は一致させること。• 題名は、論文等の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等は含めない。できる限り副題がない方が望ましい。字数については、40字以内に収まるようにする。ただし、副題を付す場合、和文は「—(全角ダッシュ)」で括り、英文は主題の後に「: (半角コロン)」をつける。• 著者名には、*1, *2 のように「*」と「数字」を上付きで表記する。それらに対応した所属機関を著者名の下段に示す。

3. 外国人名の和書書き下ろし

「執筆の手引」の作成時にこれまで想定していなかった、外国人（カタカナ表記する外国人名の著者）による和書書き下ろしについて定める必要が生じたことから、洋書(原書)を参照する場合も含めて、以下のように定めることにする。

旧	新
<p>(3)書誌情報</p> <p>参考文献の記述形式は、文献の種類によって異なる。</p> <p>以下に示す形式に従って記述する。</p>	<p>(3)書誌情報</p> <p>参考文献の記述形式は、文献の種類によって異なる。</p> <p>以下に示す形式に従って記述する。</p>

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 図書について、書籍全体を示す場合は、著者名、発行年、書名、発行所（出版社と同義）の順に、章を示す場合は、著者名、発行年、章題、監修者または編者・編著者名、書名、発行所、ページ番号の順に記述する。発行所に「株式会社」「有限会社」などの会社種別を示すことはしない。ページ番号は“pp.”で示し、章の開始ページ番号と終了ページ番号の間は、半角ハイフン（-）でつなぐ。章題に章番号等は含めない。編者は、内容を執筆している編著者の場合は“（編著）”，内容を執筆していない編者の場合は“（編）”と示す。章より小さい構成で参考文献情報を個別に示すことはしない。また、章の一部のページだけを示すことはしない。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本教育工学会（監修）, 坂元昂, 岡本敏雄, 永野和男（編著）(2012) 教育工学とはどんな学問か. ミネルヴァ書房 ● 清水康敬 (2018) 論文執筆の基本と要点. 日本教育工学会（監修）教育工学論文執筆の要点. ミネルヴァ書房, pp.175-211 | <ul style="list-style-type: none"> ● 図書について、書籍全体を示す場合は、著者名、発行年、書名、発行所（出版社と同義）の順に、章を示す場合は、著者名、発行年、章題、監修者または編者・編著者名、書名、発行所、ページ番号の順に記述する。発行所に「株式会社」「有限会社」などの会社種別を示すことはしない。ページ番号は“pp.”で示し、章の開始ページ番号と終了ページ番号の間は、半角ハイフン（-）でつなぐ。章題に章番号等は含めない。編者は、内容を執筆している編著者の場合は“（編著）”，内容を執筆していない編者の場合は“（編）”と示す。章より小さい構成で参考文献情報を個別に示すことはしない。また、章の一部のページだけを示すことはしない。 <ul style="list-style-type: none"> ● 日本教育工学会（監修）, 坂元昂, 岡本敏雄, 永野和男（編著）(2012) 教育工学とはどんな学問か. ミネルヴァ書房 ● 清水康敬 (2018) 論文執筆の基本と要点. 日本教育工学会（監修）教育工学論文執筆の要点. ミネルヴァ書房, pp.175-211 ● REIGELUTH, C. M., BEATTY, B. J., and MYERS, R. D. (Eds.) (2017) <i>Instructional-design theories and models, Vol. IV: The learner-centered paradigm of education.</i> Routledge. ● REIGELUTH, C. M., MYERS, R. D., and LEE, D. (2017) <i>The learner-centered paradigm of education.</i> In C. M. |
|---|---|

	<p>Reigeluth, B. J. Beatty, and R. D. Myers (Eds.) <i>Instructional-design theories and models, Vol. IV: The learner-centered paradigm of education.</i> Routledge, pp.5-32</p> <p>なお、カタカナ表記される外国人名は、その著者が和書を書き下ろした場合に限って、以下の例のように表記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋田喜代美, キャサリン・ルイス (2008) 授業の研究教師の学習—レッスンスタイルへのいざない. 明石書店 翻訳書の場合、原著の著者名、発行年、書名、発行所の後に、翻訳書の書誌情報を括弧でくくって記述する。1章だけの場合は、その章の情報だけを示す。ページ番号は“pp.”で示す。編者は、1人の場合は“(Ed.)”，複数名の場合は“(Eds.)”と示す。なお、翻訳書の原著者名はカタカナ表記の姓とイニシャルによって示す。 <p>REIGELUTH, C. M., BEATTY, B. J., and MYERS, R. D. (Eds.) (2017) <i>Instructional-design theories and models, Vol. IV: The learner-centered paradigm of education.</i> Routledge. (ライゲルース, C. M., ビーティ, B. J., マイヤーズ, R. D. (編著) 鈴木克明 (監訳) (2020) 学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル. 北大路書房)</p> <ul style="list-style-type: none"> REIGELUTH, C. M., MYERS, R. D., and LEE, D.
--	--

<p>(2017) The learner-centered paradigm of education. In C. M. Reigeluth, B. J. Beatty, and R. D. Myers (Eds.) <i>Instructional-design theories and models, Vol. IV: The learner-centered paradigm of education.</i> Routledge, pp.5-32 (ライグルース, C. M., マイヤーズ, R. D., リー, D. (著) 大西弘高 (訳) (2020) 学習者中心の教育パラダイム. ライグルース, C. M., ビーティ, B. J., マイヤーズ, R. D. (編著) 鈴木克明 (監訳) 学習者中心の教育を実現する インストラクショナルデザイン理論とモデル. 北大路書房, pp.4-30)</p>	<p>(2017) The learner-centered paradigm of education. In C. M. Reigeluth, B. J. Beatty, and R. D. Myers (Eds.) <i>Instructional-design theories and models, Vol. IV: The learner-centered paradigm of education.</i> Routledge, pp.5-32 (ライグルース, C. M., マイヤーズ, R. D., リー, D. (著) 大西弘高 (訳) (2020) 学習者中心の教育パラダイム. ライグルース, C. M., ビーティ, B. J., マイヤーズ, R. D. (編著) 鈴木克明 (監訳) 学習者中心の教育を実現する インストラクショナルデザイン理論とモデル. 北大路書房, pp.4-30)</p>
---	---

以上